

＜ 改善報告書検討結果（豊田工業大学） ＞

[1] 概評

2009（平成 21）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する助言として 7 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

教育内容・方法については、工学研究科博士後期課程において、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、再入学などの手続きを経ず学位論文を提出して、博士の学位を取得した者について、「課程博士」として取り扱っている問題に対し、主として経済的理由から、課程の修了に必要な単位を取得して修了要件を満たした者（「満了者」）の在学延長を支援する制度が新たに設けられたが、依然として、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後に学位論文を提出し、「課程博士」の学位を取得する道が残されており、不適切な状況が継続しているため、課程制大学院制度の趣旨に照らして、すみやかな改善が求められる。

また、教員組織では、専任教員の年齢構成比に関し、61 歳以上の専任教員の割合は改善されているが、51～60 歳が 46.0%、41～50 歳が 36.0%と高いため、あらためて年齢構成バランスの改善に向けて一層の努力が望まれる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以上